

農業の魅力追求5年

豊橋市の農家有志が集まり、自分たちの技術向上と地元農業のブランド化を目指す「豊橋百農人」は設立から五年が過ぎた。「東三河ならではの」の多様性に富んだ農業の魅力を知ってもらおうと、八日に記念イベントを開く。

「豊橋百農人」きょう催し



百農人は、無農薬レゴ、米、養豚、ウズラモンの栽培で知られる豊橋市中原町の河合浩樹さん(五)が中心となり二〇〇九年八月に設立した。柿やイチ

ゴ、米、養豚、ウズラ農家ら、各品種から一人ずつの十三人を「スペシャリスト」として選抜している。

栽培方法や情報発信、経営状態など百七十項目で、自分たちや支援者が評価したランキングを年一回、ホームページで公表し、切磋琢磨している。東三河の営農品目

は、百近くと多く、一つの作物の出来に左右されないことで地域経済を支えてきた。百農人はその多様性を生かした異業種交流。河合さんは「これからの農家は販売、企画、営業といろんなスキルが必要。ノウハウを共有し合いたい、『地域を盛り上げるんだ』という思いで活動してきた」と振り返る。

この五年で各農家とも商品開発やブランド化で経営力が高まり、団体としても移動販売車やイベントでPRを強めてきた。だが地元消費者への知名度となると「まだまだこれから」。河合さんは「巨大都市・東京が栄えるのは面白いやつが集まっているから。面白い農家が力を合わせ、東三河を農業の大会にしたい。まずは十年続

けます」と語る。イベント「藝農人」は八日午前十時～午後五時、豊橋駅南口駅前広場で。メンバーの産品を集めた物産展や、こけ玉作り、ウナギつかみ、柿の種飛ばし、ウズラ卵の殻むき選手権、トークライブなど百農人の魅力を体験できるコーナーを設ける。



かぶり物で生産品をアピールするメンバー。「まじめさ」とともに「面白さ」も重要なこだわり＝豊橋市で